

武蔵野市第五期基本構想・長期計画策定 関係市民団体会議（都市基盤／行・財政分野） 議事要録

-
- 日 時 平成 23 年 2 月 19 日（土）午後 3 時 20 分～午後 4 時 54 分
- 場 所 市役所 811 会議室
- 出 席 山本泰委員長、見城武秀副委員長、
小竹佐知子委員、近藤康子委員、作部径子委員、前川智之委員、松本すみ子委員、
会田恒司委員、井上良一委員、
事務局（企画政策室長、企画調整課長、政策調整担当課長他）
関係市民団体（14 団体 18 名）
- 傍聴者 1 名
-

議 事

・委員長より委員紹介、会議の趣旨説明の後、関係市民団体との意見交換が行われた。

【市民まちづくり会議・むさしの】参考 7 ページの「市の施策に対する満足度・重要度について」の散布図は、市民に対してミスリードな情報を与える。異なった分布をする施策の評価を同じ座標に置くのは、統計的に間違っている。

4 月に都市計画マスタープランの改定版が出る。上位計画である長期計画は、その後に出る。長計で重点的に位置づけるもの、表現、内容の調整、整合性を確保してほしい。

コミュニティ単位の意見交換会でまちづくりの議論をした。その報告書は都市整備部まちづくり推進課にあるので、委員会でも検討して、長期計画に反映していただきたい。

4 つの基本課題では、「分野を越えた担い手」「市民自治の原則」とあるのに、課題 D は行政でやることしか書いていない。行政の資本投資に対して市民が適切な判断を下し、コンセンサスを得られるものを加える必要がある。

【委員長】散布図について。社会学では重要度と満足度をクロスさせることがある。

【市民まちづくり会議・むさしの】政策のウエートが違う。直接的、相対的に評価できないものには注

を入れるべきだ。都市基盤分野は、地域生活環境指標を活用するといい。

【武蔵野合唱団】美術館の音楽室移転または廃止がうたわれていることに危機感を持っている。F & F の市民ホールは駅からも近く、利用率の高い、都内でも有数の練習場である。私どもはここで、安い団費ながらも質の高い音楽活動を国際的にも繰り広げてきたという自負がある。練習場がなくなった途端に活動は途絶える。長年培われた音楽レベルは簡単にはつくり上げられない。廃止の前にまず継続を前提とし、移転するのではあれば、現在の規模よりも大きなもので、かつ代替地を確保してからにしていきたい。

【委員長】討議要綱の中に音楽練習室の記述があるか。

【武蔵野合唱団】ないが、昨年 11 月に発行されたものに明記されている。

【委員】国際交流、文化の育成には、音楽を通じてということが討議要綱にもある。今後真摯に検討していきたい。

【吉祥寺東コミュニティ協議会】「都市のリニューアル」の項にある下水について。東町は今、法政跡地の貯留槽の件でもめにもめている。上水とは違って下水は目に見えない問題だけに、不満が固まっている。ごみの問題のように、下水についても正しい情報を提供して、全市民の理解と協力を得られるようにしてもらいたい。

道路の問題は、警察がネックになっていることがある。コミュニティ協議会は、意見交換の場づくりを一生懸命やっている。市もそういう組み立てを目指してきたと、もっとアナウンスしてほしい。

福祉の会にも参画している関係上、災害時要援護の問題でマンション住まいの人が多くことに改めて驚いた。市は、マンション管理組合や住民と地域が話し合えるツールを確立してほしい。

【委員】武蔵野市は、上水に関しては地下水 70%以上の利用で、それほど危機感はなかったと思うが、下水に関しては、河川、処理場がないことから東京都の処理場に頼っていた。下水建設当初から情報提供をしていれば、市民の理解も早い段階で得られたと思っている。今は下水の見える化を進めている。特に、法政跡地問題は今後説明会等で理解を図っていく。

道路は、機能によって事業主体が違ってくこともあり、十分な情報提供ができていなかった。

「人にやさしいみちづくり」を進める中で、市民交通計画をつくり、生活道路のさまざまな検討を進めている。

【委員長】武蔵野市は、3割の建物に8割の人が住んでいるという現状がある。この40年間に市民生

活の根本的なあり方が非常に変わり、民生委員のなり手のないことや孤独死、孤立化などが構造的な問題となっている。戸建てに住む人が世話人的なことをされる傾向が強いことも、今回考えなければいけない重要な側面だと思っている。

【武蔵野緑町パークタウン自治会】UR住宅に住んでいる。URは半官機構だが、居住者ともども武蔵野の緑を守り、緑被率の確保に努力している。独立行政法人の民営化などもささやかれ、危うい状況にあるURを武蔵野市はどう考えるか、ここでしっかり明記をしていただきたい。上水道は、安心した水の供給、PRをしているが、東京都との一元化の検討が出てきた。その意味を市民は知らされていない。財政的な問題もあるかもしれないが、はっきり知らされた上での書き方でないと、理解できない。

【委員】上水道も、下水と同じく昭和20年代から整備を進めてきた。浄水場のタンクをつくりかえるにも敷地がなく、管の老朽化の問題もある。耐震化といったリスク管理の点からも一元化を進めるべきであるということで検討を進めている。細かい情報はまだ公開していないが、議論の段階では皆さんの意見を聞く形を考えている。

都営水道との一元化は、東京都から平成12年に問い合わせがあった。一元化していないのは、武蔵野市と、地下水100%の昭島市、羽村市である。三鷹市、調布市は23年に一元化すると聞いている。

【委員長】五日市街道に埋まった水道幹線の耐震化を進めようにも道路交通の関係でできなかつたり、浄水場の東側がダウンした場合、西側から水を送ることができないといった現状を抱えている。市が市民を不安に陥れるような情報を流すわけにはいかないことも、情報がうまく伝わっていない原因の1つではないか。一元化は東京都との交渉マターでもあり、微妙な問題だけに表現はあいまいで、市民の間に、水道料金が上がるのではないかという不安、説明されない不満が広がっている。行政から市民に説明するタイミングが迫っていることも確かだ。

【武蔵野緑町パークタウン自治会】東京都がやれば安心ということか。

【委員長】東京都に任せると、柔軟で機動的な対応を期待できないという不安を抱いている人もいる。

また、そういうことは絶対ないとはいえない現実もある。東京都の水道管をつなげば、五日市街道の水道管がとまっても、周りから水が入ってくるので、セキュリティは高くなる。

【武蔵野緑町パークタウン自治会】説明をよく聞かないとわからない。情報が届いていない。

【委員長】10月に桜堤の浄水場を視察した。体験して初めてわかることもある。説明の仕方もよく考えていかなければならないと思う。

【市民まちづくり会議・むさしの】 コミュニティ構想は武蔵野市の根幹の施策の1つだが、境一丁目、三丁目はコミセンまでが遠く、コミセン過疎地域となっている。ムーバスを使わずに、もっと近いところで地域の相談できる場が欲しいという声が非常に強い。行政を待たずに個人宅を開放している方もいるので、都市基盤分野6) 項の最後の部分の記述にひっかかる。

【委員】 コミセンのあり方については、策定委員会でもたびたび議論した。従来のあり方以外の新しい地域コミュニティをしっかりと議論していきたい。

【委員長】 コミュニティセンターは、1つ1つに相当コストがかかる。幾つつくっても足りないかもしれないし、使い勝手が悪いという意見もある。運営や利用の見直し、評価のタイミングだと思う。

商店街の空き店舗や、老夫婦宅の一部開放など、地域資源の活用を、市が直接やるのではなく、まちの不動産屋さんに業務委託する方法もいいかもしれない。世田谷のふれあいサロンのような満足度の高い例もある。

【市民まちづくり会議・むさしの】 三鷹には、近所の人がかぎを管理している集会所がある。

【委員長】 いろいろな攻め口で考えていきたい。

【むさしの地区外環問題協議会】 外郭環状線は、昭和41年に高架で計画されて以降、長い凍結を経て平成19年に計画変更された。外環の2といわれる地上道路が残るのは、私たちにとって青天のへきれきだった。公募委員による地域課題検討会では99%が外環の2に反対、残りの人も、つくるなら緑地にしてほしいという背景がある。市議会も反対の意見書を東京都に上げている。都市基盤分野での7) の吉祥寺地区の4行については、余分なことは書かないでほしいし、賛成につながる言い方も、もちろんやめてほしい。人ごとの書き方をせず、行政は住民に沿った形でやってほしい。

平和施策懇談会の報告書は、委員全員にいくようお願いしたい。

【委員長】 外環の2は、ご指摘のとおり非常に微妙な問題を含んでいる。市も、余計なことは書かないよう注意深く進めている。長期計画・調整計画の文章が、市として書ける最大である。

【むさしの地区外環問題協議会】 第五期の長計は、これと同じでは済まない。客観的状況が変わっている。

【委員】 外環の2は、東京都に求めたB/Cを含めた沿線地域での交通量データがなかなか出なかったことから、話し合いがなかなか進まなかった。市は、無責任なことはいえないし、東京都と

国だけに頼ることも考えていない。都市計画マスタープランをもとに、整合性を図りながら協議していきたい。

【武蔵野老壮連合会／無二の会】Ⅶの3の2)は、まことにそのとおりである。「市は、環境整備等によって支援していく」という記述の中の環境整備を、策定委員会ではどういう問題意識で議論したのか。

第五期長期計画では、10年間の財政見通しを出したらどうか。

市報で討議要綱の特集号を出したのはいいタイミングだった。今後とも情報公開のやり方について工夫をしていただきたい。

【委員】協働できる力のある団体は多くても、横の連携がとれていないという日本社会の縦割りの弊害がある。しかし、コミュニティに参加できる人材を確保し、連携をとれていなかったところと連携する環境整備として、働きかけの窓口の充実、資金援助、情報提供という形で書かせていただいた。さまざまな分野の関係団体の方から、コミュニティのあり方、コミュニティ形成メンバーの養成、協働についての意見をありがたく拝聴しているところである。

【委員長】活動とマネジメントとでは、スキルや経験、責任感が違う。そういう人を育てていかなければいけない。教育現場との連携や協働サロンを事業としてやるなど、考える余地はあると思う。

【委員】コミュニケーションには、送り手が情報提供しても知りたい人に伝わらないギャップ、伝えつつも伝わっていないギャップ、知りたい人に伝えなければいけないのに伝わっていないギャップがある。それがある日突然爆発する。わからないことは、きちんと正しく把握するのが本当の広聴であり、足らざるところを補うのが、本当の情報公開だと思う。

【委員】きちんとした財政計画をもとに基本構想・長期計画をつくるのは基本中の基本である。事務局できちんとした財政計画を立て、策定委員会で議論するという道筋で進んでいきたい。

【子どもの参画をすすめる会】子どもが年々成長するのがわかるので、楽しく活動している。少ない人数でも活動する方法はある。行政もそれをガイダンスしてほしい。何より自分が活動して楽しいということを知ってほしい。そのための場所づくり、討議し合える関係づくりに時間を割いていただきたい。若いお母さんを育てることが、次の地域、次の市を育てることにもつながる。「武蔵野が大好き」という市職員と平等につき合う時間ができれば、私たちも市に相談しやすくなる。それを長計に盛り込んでいただきたい。

【委員長】市民と職員の協力関係、面識関係を持っておつき合いができるようになるだけでも、協働サ

ロンは大きな意味がある。また、けやきコミセンは、最も果たしてほしい仕事をしている。けやきコミセンのミニタウンのようなことが広がっていくことは大切だと思う。

【むさしのガーデニングクラブ】まちづくりは、ハード面ではなく、ソフトの部分が非常に大きい。長期計画の中では、まちづくりをハードの部分に置いている印象がある。まちづくりは人づくりという視点があるともっといいのではないか。行政にはできないが市民にはできることがたくさんある。部署を横断する形で担い手を育てていくことも、ビジョンとして掲げてほしい。

【委員長】ビジョンを掲げる方法論みたいなものを書いてほしいということか。

【むさしのガーデニングクラブ】夢のある武蔵野市、夢が持てる武蔵野市になるようにということだ。

【委員長】基礎自治体が夢を持たなかったら、日本全国の自治体は夢を持ってない。

【老壮 52 期会】高齢者が多くなり、社会文化活動のグループとデイケアサービスとで高齢者センターが狭隘になっている。代替の場所を、財政の裏づけで早く具体的にしてほしい。

【委員長】重要なお指摘である。十分検討する。

【ゆう3（テンミリオンハウス花時計）】働く母親の子どもの送迎をしている。レモンキャブのようなものが欲しいが、低価を実現するために自転車を使っており、狭い道やムーバスルートから外れたところなどでは困難を強いられている。交通機関の整備をお願いしたい。仕事をしていないが多胎児や年の近い子どもを抱える母親の支援も、ぜひお願いしたい。

————— 了 —————